

平成28年度

第1回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会

議事録

日時 平成28年8月26日(金)
14時00分 から 15時30分 まで

場所 浦和コミュニティセンター第14集会室

出席者 会長 柳井 重人
委員 杉田 住子
委員 原口 賢
委員 八木澤 順治
委員 中澤 佑子
委員 長澤 義則
委員 丸山 繁子
委員 池上 憲二
宮下 規(委員 川崎 周太郎 の代理)

事務局 みどり推進課長、大塚課長補佐、町田係長、
大越主査、後藤主査、剣持主事、磯田主事

■ 平成28年度第1回さいたま市花とみどりのまちづくり審議会 議事録

平成28年8月26日（金）14:00～15:30

発言者	意見内容
議題 緑地の公有地化について	
事務局から、緑地の公有地化について、資料に基づき説明	
長澤委員	樹林地の評価基準について、「緑地の質」の指標として、植生の多様性や樹林地の将来像なども盛り込めないか。
事務局	将来的に評価基準を見直す際に、検討していきたい。
池上委員	今回の取得計画のうち計画番号1については評価がBbランクでありこれまでの案件より低い評価となっているが、実際に現地を視察すると住宅地の中にある貴重な緑であることが分かる。現行の評価基準では評価しきれない緑地そのものの価値についても、将来的に評価基準に盛り込んでもらいたい。
事務局	今後検討していきたい。
長澤委員	用地取得については、生物多様性なども考慮し、まとまった広い面積の緑地を優先して取得できないか。
事務局	まとまった緑地を取得し、残していくことの重要性については認識している。ただし、取得のための予算の関係や市街地にある緑地のほうが消失の可能性が高いことなども考慮しながら計画していく必要がある。
柳井会長	議論のポイントとして、まずは4件の用地取得案について認めるかどうか、特にBb評価である計画番号1の案件をどう評価するか意見をいただきたい。
池上委員	市民からすると、見沼田圃はさいたま市を代表する景観であり、その斜面林の取得については積極的に行ってほしい。また計画番号1の案件については、住宅地の中の貴重な緑であり、取得すべきと考える。
柳井会長	ある程度意見も出尽くしたので、本議題について審議する。 緑地の公有地化の計画案について承認してよいか。
委員	異議なし。
柳井会長	緑地の公有地化については承認が得られた。 ただし、ここまでの議論を今後の検討課題としてまとめておく。 まず一つは、評価基準の将来的な見直しがある。緑地を含めた周辺の景観や立地環境、また植生の多様性や緑地の将来像なども評価基準に含めるべきである。 二つ目に買い取りのプロセスの見直しがある。これまでは土地所有者からの申出を受けてからの買い取りであったが、これからは保全優先度の高い緑地を計画的に取得するため、市側から積極的に買い取りを申し出ることも必要である。 三つ目に維持管理の担い手の確保がある。緑地を公有地化すれば管理コストが増大していくことから、緑地の管理ボランティアなどの育成についても検討してもらいたい。

発言者	意見内容
報告事項 さいたま市緑の基本計画後期アクションプランの実施状況について	
事務局から、さいたま市緑の基本計画後期アクションプランの実施状況について、資料に基づき説明	
八木澤委員	実施状況の中で、「概ね順調」と評価しているものがほとんどであるが、その中でも目標達成の見込みがあるものと、そうでないものをある程度把握しておいたほうが良いと思われる。
長澤委員	後期アクションプランの新たな視点として、緑に関する効果的な情報発信を挙げているが、公園の樹木や街路樹に樹名板を設置したり、緑の効果をPRする看板を設置するなどして、緑に興味を持ってもらうことが必要ではないかと感じている。
柳井会長	みどりの街並みづくり助成事業について、昨年度に制度改正の検討を行い今年度から運用しているが、今年度の申請状況についてどう考えているか。
事務局	昨年に比べると相談案件の出足が早く、申請件数も昨年より増加するのではないかとと思われる。増加の要因としては、市報に載せる回数を増やしたことや、より興味を持ってもらえるようなチラシに変えたことなど、PRによる要因が大きいと考えている。
(15時30分 終了)	